

3. 初動対応 (7月14日～17日)



内部まで泥にまみれたデジタル電話交換機 (7/27)

被災後の初動対応としては、以下の項目を実施しました。

(1) 社員への連絡

被災日である7月14日の社員への連絡は、組織別に計3回行った。
各連絡の時間及び内容は、以下の通りである。

	連絡時間	連絡先	連絡内容
【1回目】	6時30分頃	社長 ⇒ 部長、工場長	大雨の対応のため、会社にて打合せを行う ※会社にて打合せ後、自宅待機を決定
	7時00分頃	工場長 ⇒ 各課長 各課長 ⇒ 各課員	大雨のため、自宅待機 "
【2回目】	7時30分頃	工場長 ⇒ 各課長	大雨のため、臨時休業
		各課長 ⇒ 各課員	"
【3回目】	17時00分頃	工場長 ⇒ 各課長	出勤が可能な社員は、15日出勤を
		各課長 ⇒ 各課員	"

- 課員への連絡は、その殆どを担当課長が行ったが、まだ課別連絡網を配布していなかったために、連絡先が不明な場合には、課内の別の社員が連絡することもあった。
- 自宅待機の連絡が間に合わず、出勤した社員が2名いたが、自宅待機の旨を伝え、退社させた。(1名は連絡前に出社、1名は携帯電話の電源入れ忘れのため連絡つかず)
- 連絡は、全て携帯電話で行っており、携帯メールは使用しなかった。

(2) 社員の参集

前日の連絡により、7月15日には全社員53名(中国滞在、育児休暇の計2名を除く)中、42名が出勤した。当日出勤できなかった社員のうち、自宅が被災した社員4名は1～2週間程度出勤できなかった。通勤については、水害の影響で通勤経路を変更した社員もいたが、大きく通勤時間が変わることはなかった。

(3) 取引先への連絡

取引先への第一報は、各担当員、各課が個別に行っており、組織として統制された連絡は行われなかった。14日には社長が機械メーカー、主要取引先、保険関係に浸水により孤立した自宅より第一報を入れ、現状を伝えた。

15、16日が日祝日ということもあり、主な連絡は17日火曜日から開始され、当社の現状と今後の予定を伝えた。

(4) 復旧作業方針

復旧作業は、「早期復興」をその方針とし、以下の指示がなされた。

- 復旧まで、会社を無休、18時終業とし、社員は交代で休暇を取る。
- 毎日全社朝礼、終礼を行い、その日に行うべきこと、その達成度などの情報の共有化を図る。
- ボランティアの方々、修理業者の方々に深く感謝し、作業に取り組む。
- 工場は、汚泥の洗浄を第一とするが、修理業者の作業を妨げないように心掛ける。
- 受注品をリストアップして、納期中の加工可否を判断し、取引先に連絡を取り、できる限り迷惑をかけないようにする。また外注可能な受注品は、協力会社をお願いする。
- 鋼板の入荷を一旦停止するよう、取引先へ連絡を取る。
- 休憩所に仮事務所を設け、システム関係の復旧を早急に行う。

<コラム>

証言② その時、社員は・・・

入社2年 劉翰文さん(27) = 複合機担当
 「日本ならではの・・・かけがいのない経験！」

被災の翌朝、入社してみると私が担当している複合機は、60CM程度も浸水した跡がついており、周辺部には10～20CM位の泥が積もっていました。果たして、機械は復旧できるのだろうか？前みたいに自分は、働けるのだろうか？正直、不安でなりませんでしたが、何とかしなきゃ！と思う気持ち一心で、みんなと共に汗を流しながら、毎日5～6本のペットボトルを、ごくごくと飲みながら清掃作業にあたりました。

私は中国山東省出身。5年前、日本の女性と結婚して今では息子が一人います。ヤスナガには2年前に入社しましたが、今回の被災経験は、私にとっては、生涯忘れることができない貴重な体験にもなりました。中国では災害が起きると、被災地周辺地区の水の代金が跳ね上がります。他人のことなんて、何も考えてもいないんです。私はそんな環境に育ったので、被災後の日本人達の姿には本当に驚きました。社員は勿論、ボランティアや取引先、機械メーカーの方々等、皆が声を掛け合い、励まし合いながら作業にあたる姿、本当に感動しました。飲料水やお見舞い等、毎日届けられる数々の支援物資。私も頑張らないといけないと、どん



なに勇気づけられたことか！本当にきつい経験ではありましたが、私には日本ならではの・・・かけがいのない経験にもなりました。

ヤスナガに入社時、私には技術も資格もなかったため、果たして、ヤスナガで自分が続けられるのだろうか？と不安な面もありました。しかし、今では自信をもって、「この会社で、これから先も頑張りたい。」と思える様になりました。それが、被災体験の前後で、はっきり自分が変化したことだと思えます。